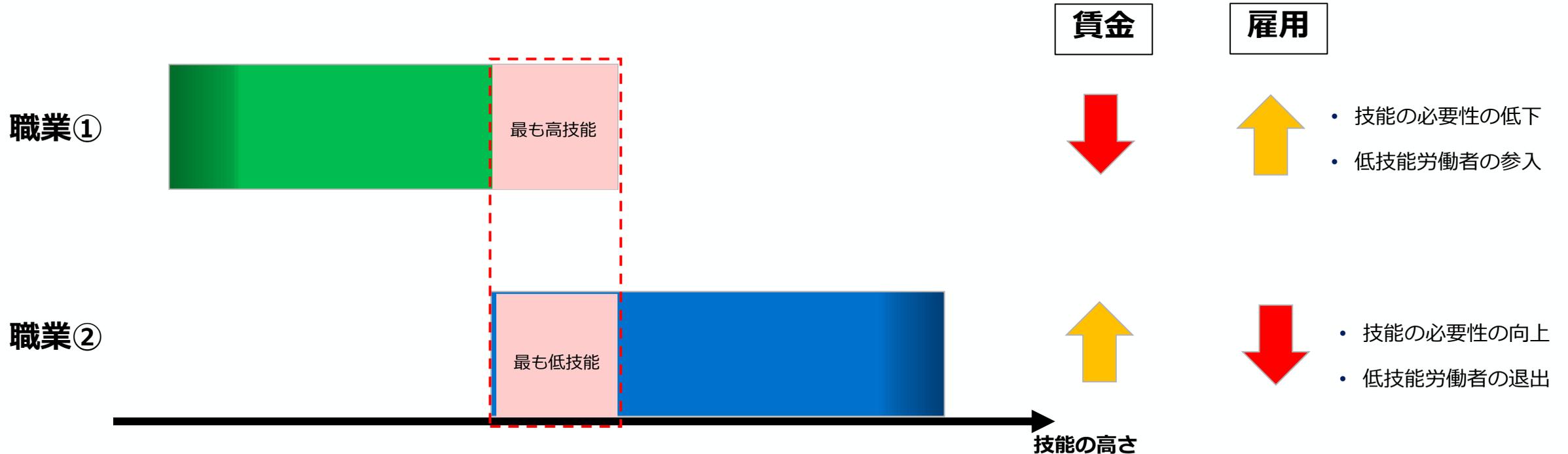


1. 少子高齢化は、生産年齢人口の減少による構造的な人手不足をもたらす。エッセンシャルサービス（ES）の供給の持続性確保にとって、広域化・多角化による採算性向上は重要な手立てであるが、本質的に中長期で求められるのは省力化。少子高齢化が深刻な我が国では、ESの現場における省力化の緊要性が高いため、AI・DXやロボティクスの社会実装が加速的に進む可能性。これにより、ES産業は、高技能・高賃金の仕事として「アドバンスト・エッセンシャルサービス（AES）産業」に進化するポテンシャルあり。AESへの進化に求められる省力化技術にはどのようなものがあるか。【参考1】
2. ES分野における、デスクワークの代替・補完としてのAI・DXや、フィジカルワークの代替・補完としてのロボティクスの導入の促進に向けて、需給両面においてどのような政策を講じていくべきか。
3. 多くのES分野において対人サービス業務は機械による代替は困難とされてきたが、こうした業務を代替・補完する新技術について、コミュニティ形成などその波及効果を含めどのように評価するか。
4. 人手不足の解消の方策として、地域内外の人的資源の柔軟な活用や、産業の担い手の多能職化をどのように促進していくか。
5. ES供給事業者やその支援機関には多様な主体の参画が求められるが、人手不足を克服しながら事業の効率化を図っていく上で必要となる多様な主体間の相互連携やそれぞれの特長の掛け合わせを促していくには、どのような方策があるか。【参考2】

【参考 1】 AI時代におけるエッセンシャルサービス産業

- AI・自動化により代替困難な業務が高技能である職業（職業②）は高賃金の「良質な雇用」（※“ブルーカラービリオネア”）
- ES産業における低技能業務を自動化し、**自動化が困難な対人サービス業務やコミュニティ維持機能**など、高技能業務等のみを残せば、高賃金の「良質な雇用」の創出が可能。 = 「アドバンスト・エッセンシャルサービス（AES）産業」。
- AES産業は「**国民生活の維持**」と「**良質な雇用**」の二重の意味で不可欠。 = 「**ダブル・エッセンシャルサービス産業**」
- AESへの進化の鍵となるのは、自動化など省力化のためのテクノロジーとその社会実装。 = 「**ESテック**」

自動化される業務



【参考2】 エッセンシャルサービスの供給を担うステークホルダーのスペクトラム

- 「民間」か「公共」かではなく、公的主体と私的主体の間に公私の境界を超えた多様な形態の主体が存在。
- エッセンシャルサービスの供給の持続性確保には、多様な主体間の相互連携や組み合わせが重要。

民間セクター

中間団体/セクター

公共セクター

